

第4回栃木県産業再生委員会「県内産業・地域活性化部会」議事録

日 時 平成17年11月1日(月) 14:15～16:15

場 所 藤原町日光地区商工会議所鬼怒川事務所2階会議室

出席者

< 委員 >

亀田部会長

荒井委員、金井委員、小関委員、鈴木委員、高田委員、千葉委員、野田委員

船曳委員、前田委員 (欠席2名)

(10名)

< オブザーバー >

藤本委員長

< 藤原町 >

八木澤町長、長嶋地域再生推進室参事、作道観光課長、沼尾地域再生推進室長

< 県 >

須藤副知事、小林商工労働観光部長、野口商工労働観光部次長

菅沼商工労働観光部参事、高野経営支援課長、高野観光交流課長、高斎地域振興課長

会議内容

1 開 会

【亀田部会長】

本日は、藤本委員長が現地調査にご参加いただき、部会を代表して感謝申し上げます。また、八木澤町長はじめ、藤原町の職員の方々には、本日の現地調査のために、ご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

本日の日程は、最初に、八木澤町長にあいさつをいただき、藤原町から地域再生計画の進捗状況などの説明を受け、その後に温泉地周辺の現地調査を行うこととしたい。

現地調査後は、再び、この会場に戻り、質疑及び意見交換を行い、最後に、今後の部会の日程等についてご検討いただければと考えている。また、本日の会議は、現地調査を含めて公開で進めてまいりたいが、よろしいか。

(各委員から異議なしの意見)

それでは、次第に沿って会議を進めさせていただく。

最初に、八木澤町長にごあいさつをお願いしたい。

【八木澤藤原町長】

当町では、地域経済の活性化の雇用の確保を目指し、昨年6月に国から地域再生計画の認定を受け、現在、国、県等の支援を受けながら各種の取り組みを進めている。当地の持つ美しい自然をはじめ、観光資源の有効活用と温泉地が本来持っている健康、文化的なイメージを最大化する再利用の方向性として、鬼怒川・川治温泉「自分らしくなれる町」の構想実現に向けた再生計画として、福祉観光及びいやし観光を目指すことにした。

この計画に基づき、駅前の整備をはじめ、ハード、ソフト、各種事業を実施しているが、概要については、この後、職員から説明をさせていただく。

こうした取り組みを進めていても、鬼怒川・川治温泉は、現在、大変厳しい状況下

にあるが、当地が持っている観光資源や地域資源は、成功事例といわれる湯布院や黒川温泉、または城崎温泉等に比べて決して劣るものではなく、自然の美しさ、おもてなし、または集積するテーマパーク、浅草から2時間という交通の便など、すぐれたポイントを積極的に売り出すことによって、必ず活性化が図られるものと思っている。

特に、鬼怒川・川治温泉の活性化にとって、ホテル、旅館の再生が重要であり、企業の再生がなければ、地域再生も図れないので、新たな魅力の創出と地域再生を推進することが最も大切であると考えている。このため、各種の事業実施によって前進しつつある現在の動きをさらに確固たる再生につなげるため、事業者、観光関係団体、そして、行政が一致団結して積極的に取り組んでいく覚悟である。県内産業・地域活性化部会の委員各位には、引き続き、御指導、御協力をお願いしたい。

【亀田部会長】

次に、藤原町地域再生事業の進捗状況について、藤原町地域再生推進室の沼尾室長から説明願いたい。

【沼尾藤原町地域再生推進室長】

資料No1「藤原町の地域再生の推進に向けて」と題して、まず、鬼怒川・川治温泉の現況を説明させていただく。

宿泊客数の推移は、平成5年の340万人をピークに年々減少を続け、平成16年度には220万人、差にして120万人の減少という状況である。また、宿泊施設の数も、平成9年の127軒をピークに減少を続け、昨年度108軒ということで、19軒の減少である。そういった状況を踏まえ、昨年、国では地域再生計画制度が創成された。それに伴い、同町の観光の振興を図るべく地域再生計画を策定し申請した結果、6月21日認定を受け、現在、国及び県からいろいろ支援を受けている。

地域再生の推進体制については、地域再生計画の認定を受け、町でも、昨年7月1日に観光課の中に地域再生推進室を設置した。当初3名の職員で職務していたが、今年度4月に入り、本格的な事業展開が開始されるので、3名から10名に体制を拡充した。その中には、県から幹部職員2名を派遣いただいている。

地域再生の推進体制では、町長の直命を受け地域再生推進室がすぐに活動を行える流れになっている。この町の地域再生の費用については、国及び県からそれぞれ支援を受けた。また、国の特定地域プロジェクトチーム、さらに、県の地域再生支援プロジェクトチームの中には、県の市町村課、地域振興課、観光交流課、都市計画課、4課の職員にチームを組んでいただき支援を受けている。また、藤原町地域再生推進委員会という組織を設けた。これは、町長の諮問機関として、地域再生の事業を多方面に検討し、提言をいただく組織である。構成メンバーは、議会の代表、議長、観光団体の長、また、理事会の代表者、町の学識の経験者等々9名のメンバーで構成されている。これまでに審議された会議の内容は、第1回から第10回まで行い、それぞれ地域再生にかかわる事業を検討していただいている。

また、地域再生推進室とともに、連携を図りながら地域再生マネジャーと契約し、一緒に仕事をしている。このマネジャーの中には、JTB、共同通信PRワイヤーそして乃村工藝社の3企業がチームを組みマネジャー業務を担当していただいている。また、町の地域再生の推進組織として、地域再生マネジャーサポーター、地域再生イベント実行委員会、おもてなし向上委員会等々、新たな組織を立ち上げ、連携、協働を図りながら進めているところである。また、今年度の実施事業については、ハード事業、調査事業、ソフト事業にそれぞれ分けて記載してある。

次に、資料No2「藤原町地域再生計画について」をご覧ください。町民に地域再生計画等をわかりやすくお知らせするため、広報紙に載せたものである。再生の方向性、町の進める地域再生計画の理念といったものが記載してあるが、既存の特性を

生かしつつ新しい観光と産業を主軸として、福祉観光とヒーリング観光をテーマに、訪れるお客様に、人間性の回復の場として心と体の安らぎを提供し、自分らしさを取り戻していただきたいという願いとともに地域も活性化させて、本来の自分を取り戻していただきたい、自分らしくなっていたきたいという願いを込めている。

次に、資料No3をご覧ください。今年度、実際に事業を展開してある進捗状況である。1ページにハード事業が羅列してある。まず、主なものとして、鬼怒川温泉駅前整備事業については、この後、現地も見えていただくが、鬼怒川温泉の顔である駅前を整備し、来訪客に、鬼怒川が変わり始めるという印象を持っていただきたいと思う。7月に着工し、来年2月22日竣工予定となっている。これには、来年春にJRが新宿方面から鬼怒川温泉に直接乗り入れるといううれしいニュースがあるので、それに合わせるべく、今、急ピッチで事業を進めている状況である。

鬼怒川河川遊歩道整備事業と大滝河川遊歩道整備事業の二つの河川遊歩道整備事業を今年度実施する。11月に着工し、2月に完成予定となっている。これは、昨年実施した国土施策創発調査の中でも、訪れた観光客から、鬼怒川にせっかく来たのに川に近づく場所がない、川が見られる場所がないという要望にお応えすべく、県からも支援を受け、今年度に整備することとしている。

温泉湯量確保事業では、温泉地の一番の命は温泉であり、昨今の温泉問題等もあり、どうしても温泉の湯量の確保をしておかなければならないということから、この事業についても早急に展開すべく、今年度からの調査を含め、選定している段階で、来年早々に着工したいと考えている。

総合文化会館の整備事業では、現在、観光客の案内所が不便なところにあるので、駅前整備とあわせて観光情報の発信基地として整備していく予定である。

遊休地再生整備事業については、現在、休廃業した大型ホテル等が老朽化してそのまま建っている状況で、非常に景観的にも好ましくなく、温泉地としてのイメージダウンになっていることから、この遊休地の早期更地化、転用することが大命題となっている。

ソフト事業の地域再生マネジャー事業では、昨年度から総務省の支援を受け、日本の著名な企業とチームを組んで、協力しながら事業を行っている。

宝探しイベント事業では、マネジャー等からの提案で実施している事業で、鬼怒川温泉の中を一つの宝探しのエリアと見立てて、町の要所に宝を隠し、町の人からヒントをいただかないと発見できないという内容で、町の観光客とのコミュニケーションや回遊に効果があったと感じている。また、PRにはインターネットを活用したことが誘客にも結びついた。

ふれあい橋のイベント事業では、全国で唯一のイベントである橋上ビアガーデンをこの場所で開催した。昨年度、町の有志によって8日間実施したが、その後、内閣府の特命顧問である島田晴雄先生を招いて、町で地域再生の講演会をいただいたときに現地を案内したが、非常にユニークですばらしいイベントであるので、もう少し拡充してやりなさい、という力強い助言をいただいた。その結果、今年度は50日間実施したところである。

鬼怒川温泉駅前の整備の状況(駅前整備計画パース)であるが、駅前を降りるとすぐにイベント広場あって、その隣り(駅を降りて右側)に交通アクセスゾーンが設置される。鬼怒川温泉河川遊歩道のパースの左上にあるのがくろがね橋で、温泉の中央にある橋である。昔は、この辺にボートの乗り場があり、ボートで遊覧する観光客もあったが、危険であるということで遊歩道が使われないうまま老朽化している。しかしながら、要望が多いため、県等の支援を受け、今年度、ここに新たに遊歩道を整備する。次のパースである大滝河川遊歩道の図面の一番下側に、白く滝らしくなっているところが、大滝である。この鬼怒川温泉は、かつて下滝温泉と呼ばれ、この大滝を境に下流側を下滝、上流側を上滝というように名前の由来になった滝である。

資料No4は、これから視察するコースで、鬼怒川の温泉街を実際にバスでご案内させていただきます。

最初の案内先である文化会館前では、駅前とその文化会館の整備箇所を説明させていただきます。説明終了後は、ここからバスに乗って、遊休施設群をバスの中でご覧いただくが、ここに休廃業した大型ホテル等が集中している。次に、大滝河川遊歩道の整備箇所をご覧いただき、鬼怒川温泉ホテル前で下車し、くろがね橋から遊休施設群と鬼怒川河川遊歩道の整備箇所の概要について説明を行う。

その後、行灯通りを歩いていただくが、この地区は、かつて鬼怒川温泉の中心街であったところで、活気のあるお店が並んでいた地域であった。しかしながら、最近、商売に困ってやめる店があり、空き家が多く目立つところになっている。しかし、地元が危機感を持ち、何とかこの地域に人を呼び戻そうということで、手づくり行灯をつくり、少しでも街並みを明るくしようと取り組んでいる。

次に、ふれあい橋のピアガーデンを見ていただく。この階段の壁面を使い、45メートルの鬼の絵が描かれている。鬼怒川のキャラクター「鬼怒太」がここに描かれているのでご覧いただきたい。ふれあい橋の後は、バスに乗っていただき、「歴史の路」遊歩道整備箇所を視察いただく。ここには、楯岩という景勝地があり、その山側に、イギリスの女流探検家のイザベラ・バードが、東北方面に旅したときの紀行文の一説にこの辺を書いたであろうという跡が残っている。「歴史の路」という位置づけで、ここに遊歩道を整備する予定である。

【亀田部会長】

藤原町の地域再生計画の概要や進捗状況等について、ご理解をいただいたと思う。質問等は、現地調査の後に時間を用意してあるので、そのときをお願いしたい。それでは、これから現地調査を行うこととする。案内は、沼尾室長をお願いする。

(沼尾室長の案内で、藤原町総合文化会館前に移動)

午後2時30分から午後3時40分まで現地調査を実施
現地調査終了後、会議を再開

【亀田部会長】

それでは、早速、質疑・意見交換に入りたいので、質疑、意見等をお願いしたい。

【野田委員】

遊休施設の旅館・ホテルは、なるほど無残な状況だなと感じた。あの状況では観光地鬼怒川の景観を非常に損なっている。鬼怒川温泉街に、どの程度の空き店舗があるのかというのを知りたい。旅館・ホテルとその他の店舗を区分する必要があると思うので、区分した状況で教えていただきたい。

大型の旅館・ホテルについては、単なる休業ではないと思える。例えば民事再生法の申し立てがあるとか、あるいは全く倒産状態にあるのか。またそれらを買収するのか、あるいは取り壊すだけでも、相当な金額がかかってしまうのではないのか。これらに対する状況、資金の出所はどのようになっているのか。

【沼尾藤原町地域再生推進室長】

空き店舗の数については、手元に資料がないので、後ほど委員各位に報告することとさせていただきます。(後日調査し、各委員に報告済み)

旧温泉街の多くの空き店舗が存在する旭町地区では一連の空き店舗があり、営業しているところより空き店舗が多いが、本日視察いただいた本町地区の通りでは、地元

の商店会の皆さんも非常にやる気になっており、案内の途中で説明させていただいたように、行灯の飾り付けや、今年度については、それぞれが家紋を入れたのれんを出す計画を策定しており、地元の熱意が盛り上がってきている。それに併せて行政側でも空き店舗を数舗借り上げ、改修し活用することを考えている。

遊休地の部分では、鬼怒川左岸に休廃業ホテル群が存在しているが、所有権が明確な旅館については、できれば本年度中に買い取りたいと考えている。これには、相手があることなので、合意に達するかどうかの期限は申し上げられないが、早急に対応したいと考えている。また、国土交通省のまちづくり交付金を導入できないかを検討しており、昨年度、計画したまちづくり交付金の整備計画の変更申請を行っているが、これが採択されると、最大で4割の財源が確保できる。土地代よりむしろ解体に多額の経費がかかるので、この部分も含めた整備全体に対して、まちづくり交付金を導入し、整備していきたいと考えている。

【船曳委員】

鬼怒川・川治温泉観光協会の立場で、お話すると、鬼怒川温泉は、日本でも3番目に大きな温泉地で、旅館が団体型になっている。湯布院や黒川温泉は、団体型ではなく、都市型に特化した温泉地であって、当温泉との違いがあるので、なかなか再生が難しい。しかし、先ほど視察した本町通りの商店街を見ても、徐々にではあるが、地元住民が先頭に立って活性化の取組みを行っているので、こういった取組みが再生の近道であり、非常にありがたいと思っている。

協会としても、来訪客を何とか増やして町の活性化につなげようと、鬼怒川温泉にある五つの橋をテーマに「五橋めぐり」イベントを行いかなり好評であった。協会も予算を注いで、このイベントを通年実行している。鬼怒川・川治温泉の宿泊客は、鬼怒川温泉に来て、旅館に入った後は、お風呂に入って完結し、街中に出ていく機会がなかったのではないかと思う。現在は、当地に早めに来て、温泉街を楽しむ宿泊客が増えてきており、健康志向で、街を歩くという方が多くなっている。

鬼怒川温泉は、南北3キロに及ぶかなり大きい街であるため、一つのエリアとして捉えていくのは難しい。このため鬼怒川温泉を三つのエリアに、川治温泉を一つのエリアとして、合わせて4つのエリアに区分して、それぞれのエリアでいろいろな事業を計画しているので、これからも各エリアで何とか頑張ってもらいたい。

【高田委員】

温泉地の実情というか、問題点が大幅浮かんできた。やはり、先ほどの話にあったように、町中に人が歩いていない、というのが正直な印象である。そのあたりもう少し人が町の中に繰り出すような仕掛けづくりが必要なのではないか。

先ほど説明いただいた藤原町の地域再生計画が着々と実現されていることは、非常によいことだと思う。一つひとつ、こういった計画をきちんと実現させていくとともに、いろいろなものに対して貪欲に取り組んでいく必要があるのではないか。特に、最近、経済産業省が集客交流ビジネスの振興のための事業に多くの予算を計上している。今後は、かなり観光というものに力が入ってくるのではないかと思うので、もっと貪欲に、国のいろいろな事業、公募等に応募しながら、いろいろなことを行っていく必要があるものと考えます。

国土施策創発調査の内容について、もう少し御説明いただきたい。

【沼尾藤原町地域再生推進室長】

昨年実施した国土施策創発調査の内容については、栃木県では鬼怒川・川治温泉、群馬県では伊香保、山梨県では石和温泉で実施された。当町では、地域再生に絡み、鬼怒川温泉の景観と広域交流という二つの分野に分けて調査を行った結果、鬼怒川温

泉の良好な景観を確保することや、回遊性を高める町中のイベントの実施、河川遊歩道や遊休地の活用、また歴史の路遊歩道などの整備など、これらを実施していく上での手がかりが得られた。

エリアのことでは、先ほど船曳委員から意見があったが、今まで鬼怒川温泉を一つの町として、何をやるにも一律に行ってきたが、南北に細長い地域なので、むしろ、幾つかに区分して地域の特色を生かしながら、いろいろな事業を考えていった方がいいという調査結果が得られたため、今後は、鬼怒川・川治温泉を4つのエリアに分けていろいろな事業を計画していくことにしている。

【野田委員】

エリアの話があったが、鬼怒川・川治というエリアで鬼怒川3地区、川治を入れて4地区に分けて事業を計画していくわけであるが、歴史や観光、自然ということになると、単に鬼怒川・川治温泉だけではなく、周遊させるというか、例えば日光、塩原、那須などとタイアップをしていくことが、非常に重要である。それぞれの地域がそれぞれの特性を持っているわけであり、観光客が一つのニーズで来るとも思えない。であるから、多様なニーズに果たして鬼怒川温泉だけで応えきれぬのかどうかという問題もあるし、そういうニーズに応える意味でも、連携を今後どういう具合に行っていくのかということがかなり重要な課題になると思う。中長期的な展望になるかと思うが、お聞かせいただければありがたい。

例えば県がそういうものを主導して、具体的な展開をしているのか、あるいは藤原町と塩原町、川治温泉でもそういうのを交流や連携が具体的にしているのかどうかもお聞かせいただきたい。

【高野観光交流課長】

日光、鬼怒川、あるいは塩原、那須という主要温泉地のそれぞれの顔、個性を連携させるということが必要であるということで、本県への観光客の80%以上を占める首都圏に向け、9月から12月までの4カ月間特別キャンペーンを実施している。それぞれ地域の食材をメニューに生かし、関係する観光施設に参加いただき、地産地消という考え方からお客に特別メニューを楽しんでいただく、あるいは連泊料金、泊食分離料金の設定など、そういった工夫して、首都圏のお客を呼び込もうと県内全体で取り組んでいる。

また、特に外国人観光客に向け、日光という大きな栃木県のブランドがあるので、日光ブランドを中心として、外国人観光客誘致のために関係市町村と県で国際観光推進協議会という組織を設置をしている。この協議会を通じ、韓国や台湾などに対して、個性を生かした観光地を連携させたPRを行っている。

主要観光地のみではなくて、平場の観光地を含めた広域観光ルートを作成するため、栃木観光戦略会議を通じ新たに25のモデルルートを設定し、これを関係旅行業者中心に広くPRをするなど、広域的な観光PR、誘客宣伝に努めている。

【野田委員】

もう少し補足説明願いたい。

【小林商工労働観光部長】

鬼怒川温泉に来られる方は、大多数が他の観光地に寄った後に、当地に宿泊する。鬼怒川温泉も、かつては、団体旅行で泊まりにだけ来て、朝までホテルで過ごしてお帰りいただくといったスタイルであった。これからの鬼怒川温泉を活性化させるにはどうしたらよいか、ということに当たっては、ここだけではなくて、ほかの観光

地と広域的に連携をとって、例えば県内を結ぶ幾つかのモデル的な広域観光ルートを設定し、鬼怒川温泉に泊まっていたら、翌日にほかの観光地を巡っていただく、といった人の流れをつくるのが県の役割ではないかと考えている。このモデルルートについては、先ほど高野課長が申し上げたように、培い、アピールしているところである。今後も、そのような考え方を進めて、旅行エージェントなどともタイアップしていくこととしている。

外国からの誘客も全く同じで、東京からこの地に来ていただき、自然景観のよさを見ていただく、そういった、新しい流れをつくっていくために努力しなければならないと考えているので、御理解いただきたい。

【野田委員】

その点については、理解した。

【小関委員】

先ほど、駅前広場の整備事業を拝見させていただいたが、コンサートや市場などができるということで、とても期待している。その隣に併設されている総合文化会館については、観光交流の拠点施設に位置づけられており、常設の展示を行い、駅前広場と連携させていくとよいと思った。そういう意味で、ソフト面での活用の仕方の考え方についてお聞かせいただきたい。

【沼尾藤原町地域再生推進室長】

駅前総合文化会館の整備については、現在、設計中で、具体的な中身を詰めている段階である。町で考えている活用策として、例えば、先ほどご覧いただいたエントラス部分とロビーの部分については、取り外し可能な舞台を設置して、土曜日、日曜日などお客さんの多いようなときに、その舞台を出してイベントを行う。具体的な例として、今、考えているのは、かつて鬼怒川温泉に 300人もの芸者さんがおられたが、現在は20数名と少なくなっている。そういった芸妓組合の皆さんの協力をいただきながら、手踊りなどを見せていただく、あるいは町の中にあるお祭関係の団体の協力をいただき、イベントを行うことを考えている。あわせて、駅前広場のイベントスペースとタイアップした形で、地域の懇談会や住民の意見を伺いながら、いろいろ企画していきたい。

【前田委員】

先ほどから地域再生計画などいろいろとお聞かせ頂いたが、歩く楽しみがある遊歩道や足湯など、一生懸命取り組んでいる気持ちはよくわかるしいいことだと思うが、問題は、どうやってお客さんを呼ぶかということだと思う。過去においては、黙っていてもたくさんのお客さんが来る時代で、何もしなくてもよかったと思うが、今は、とにかくお客さんに来てもらうという方法を考えなければならない。

昔は、農協や婦人会、あるいはロータリーでもそうだったが、会議といえば、ほとんど鬼怒川温泉で行っていたが、現在は、ほとんど行われていない。私どもの建設業界は御承知のとおり景気が悪いが、現在、会議を行うときは、県内の観光地を使うこととしている。本来は、このように各企業や、いろいろな協会、団体が鬼怒川温泉などの県内の温泉地を使うことのPRを行うべきではないか。また、旅館・ホテルや観光協会、あるいは役場などと連携して誘客方法を考えなければならないと思う。

【作道藤原町観光課長】

町としても、個人客の誘致も重要と考えているが、団体客の誘致についても必要不可欠だと思っている。全国的な各種大会等の鬼怒川・川治温泉で開催するような誘致

対策は、県などの関係機関からの協力をいただきながら、今後も積極的に進めてまいりたい。町も、宿泊して大会等が開催される場合の対策補助費等も、考慮しているし、そういった補助金を活用しながら、今後、積極的に進めてまいりたい。

【八木澤藤原町長】

町としてもいろいろ模索をしており、地域再生については、おんぶにだっこではだめですよということで、自分たちの町は自分でつくるんだということを認識させることが一番である。もう一つは、行政が何でも行ってしまうということになってはだめだと思っているので、そういう面では、町と地域住民が協力し合いながら、これからも一生懸命進めていく努力をしていきたいと思っている。

委員各位から御意見をいただいたが、一番重要なことは、お客のニーズに応えることと、いかにしてお客さんを集めるかということである。これについては、ひとりで踊っていてもだめなので、観光協会と町が連携を保ちながら広報等を行っている。

今までは、日光を見て鬼怒川温泉に泊まるというのがパターンであるが、ただ泊まっていたただけでは、次の朝、都会へ帰ってしまう。そういうパターンから脱却するため、現在は滞在型ということで、例えば1万円で泊まれば2泊だと2万円になるものを、二泊目を1万6,000円と割安にするとか、ポイント制を導入するなどして連泊を促したり、現在のニーズにあったような宣伝目標を立てて動いている。

本日見ていただいた遊休施設については、個人所有であり、例えば、奈良県の会社が所有しているものは、遠距離であり折衝するのも大変である。また、行政が勝手に処分することはできないので時間はかかるが、町の職員も懸命に努力し、引き続きまちづくりを推進していく所存であるので、よろしく願いたい。

【亀田部会長】

最後の議題についてであるが、今後の部会の日程等について皆様にお諮りしたい。昨年11月から、この部会で建設業と温泉観光地の再生の方策について検討を続けてきたが、藤本委員長から、これまでのご意見やご検討いただいた結果について、大変貴重なものであるので、ぜひ部会で報告書という形にまとめてはどうかというお話をいただいた。この部会の使命は、足利銀行の一時国有化に伴い、当面、短期的に実施すべき施策について検討を進めていくということであり、できるだけ早く皆様のご意見を報告書という形で取りまとめて、来年度の県の予算等に反映できればと考えているので、委員各位のご意見はいかがか。

(各委員から異議なしの意見)

それでは、そのような方向で進めてまいりたいので、報告書の取り扱い等、細かいことについては藤本委員長と相談した上で、皆様にお諮りしたいと思う。次に、今後のスケジュールについて、お諮りしたいが、報告書をまとめるということになると、本年中に、あと2回くらい部会を開催する必要があると考えている。若干この日程が厳しくなるが、次回の部会を11月28日月曜日に開催し、建設業及び温泉観光地のそれぞれの再生方策について、さらにもう一度ご検討いただきたいと思う。また、6回目の部会は、12月中旬から下旬ごろに開催して、報告書案として取りまとめ、ご検討いただきたいと考えている。大変忙しい日程であるが、ご協力願いたい。

(各委員から賛同を受ける)

このような日程で、ピッチを上げて進めていくことといたしたい。
また、資料5については、これまで部会における委員各位の御意見や参考人の発言

を、業種別、項目別に、参考までに事務局に整理させたものである。後ほど、お目通しいただき、何かご意見等があれば、事務局までご連絡いただくか、次の部会で承りたい。

特に意見等がなければ、本日の議題はこれで終了をさせていただきたい。

(部会終了)